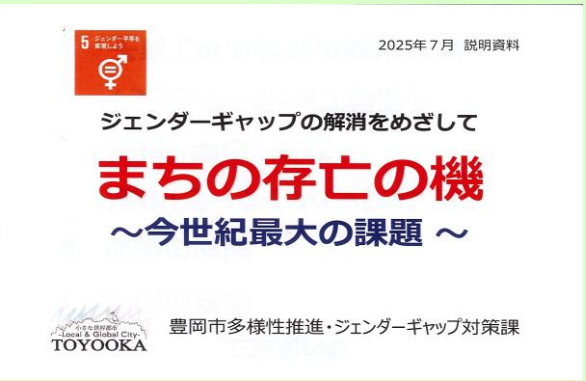
山田みやこの活動報告

令和７年８月５，６日会派視察

豊岡市役所
「ジェンダーギャップの解消をめざして」
豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策課
課長　原田紀代美さん、専門員　上田篤さんより話を伺う

豊岡市はまちの存亡の機として、今世紀最大の課題　地方創生＝人口減少対策
気が付くと若い女性たちが、まちからすーっといなくなってしまった
なぜ、若者が帰って（入って）来ないのか？　⇒ジェンダーギャップが大きい
ジェンダーギャップは、社会的役割や機会等の男女格差

・ジェンダーギャップの何が問題なのか
女性が女性であるという理由だけで能力も発揮できない
人口減少の加速　⇒まちの消滅
経済的損失
社会的損失
公正さの欠如（アンフェア）
・ジェンダーギャップの解消のための取り組みとして
職場の「ワークイノベーション戦略」
地域・学校・家庭でのジェンダーギャップ解消
子育て中の女性の就労支援



<u>ワークイノベーション戦略</u>
目指す将来像は、ありたい姿に向かって生き生きと働く女性が増える
市民の理解拡大のため、まず経営者の認識向上と意識改革、人事担当・管理職・従業員の意識改革と行動改革とさらに女性従業員のキャリア形成支援

〇先進事業所の表彰制度、あんしんカンパニー「豊岡市ワークイノベーション表彰制度」
〇豊岡市ワークイノベーション推進会議
若手社員・経営者など11人（女性6人、男性5人）のブリッジメンバーでジェンダー・ジェネレーション
社内間と社外間のかけ橋となりワークショップ開催

〇市内企業の取り組み・変化
管理職と男性との思い込みを「実際は女性が仕切っているが役職に就いていない」ことに気づく
それぞれの役割を明確にし、ポジション数を増やした
①専門家を入れて人事評価制度の再構築
②男性社員が受験していなかった国家資格を女性社員にも拡大
③1か月単位の変形労働時間制を採用
④宿泊業特有のたすき掛け勤務・中抜け勤務の原則廃止
⑤男性社員の製造ラインに女性社員も配置し、設備を改良。男性社員も働きやすさが向上

山田みやこの活動報告

〇ジェンダーギャップ解消戦略策定に向けた提言

性別役割分業意識と慣行の洗い出し

①ジェンダーギャップ解消が自分ごとになっていない

②男女がフェアに働き続けられる職場環境と意識改革

③若い世代の声が政策に反映されていない

④地域の意思決定は男性中心

高校生・20代のワークショップを開催し、目指すまちの姿を描き実現に向けて必要なアクションを考える

〇ジェンダーギャップ解消戦略を策定2021年3月

〇豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略会議を発足

市民委員10名（女性5人、男性5人）

顧問　目黒依子さん（上智大学名誉教授）、アドバイザー　大崎麻子さん（関西学院大学客員教授）

・ジェンダーギャップ解消戦略会議と庁内推進委員会の合同ワークショップにて(2021.11)

ジェンダーギャップ解消の必要性を効果的に市民に伝える

男性の家事・育児などケアワークへの参画とスキルアップ

地域活動への女性の参画

中高年・若年者の社会的孤立を防止

〇市民の理解拡大と浸透に向けた研修とワークショップ

萩原　なつ子さん（国立女性教育会館理事長）からのアドバイス

地域づくりに男女の視点

会社・家庭・地域での男女間の「もやもや」を一挙解決

自治会の事業見直し

⇩

地域における組織や住民の変化

女性も参加しやすい時間帯や曜日に

性別に関わらず誰もが発言しやすい雰囲気

総会の決定権に女性が参画

役員三役が男女半々に

祭りや運動会の性別役割分担の見直し

〇教育分野におけるジェンダーについて考える研修会

対象：小中学校・幼稚園・こども園・保育所の管理職、教職員

〇中学校生徒リーダー研修会

対象：市内中学校生徒リーダー34人、校長9人、生徒会担当教諭9人

山田みやこの活動報告

〇子育て中の女性の就労支援

・プチ勤務（少日数、短時間勤務）で働いてほしい市内事業所とつなぐ
　2018～2019年度で39人が就職
　2022年4月女性の就労支援に取り組む「みらい応援Room」開設
・働きたい女性のためのデジタルマーケティングセミナー
・働きたいママのためのハローワーク出張就職相談
・子育て世代応援おしごと相談会

〇厚生労働省兵庫労働局・豊岡市ワークイノベーション推進会議、豊岡市が
　「豊岡市女性の就労に関する協定」を締結
〇女子中高生向けプログラミング体験Camp
〇働きたい女性のためのプログラミング教室
〇豊岡みらいチャレンジ塾（女性リーダー育成2022～2024年77人受講）

まとめ

ジェンダーギャップの解消は未来に向けた取り組み。
過去の社会のあり様や、人々の生き方を否定するものではなく、産業構造や人口構成の急激な変化に対応しながら、すべての人にとって生きやすい社会、持続可能な地域社会をつくる取り組み。

自分の中にある「無意識の偏見・思い込み・決めつけ」や固定観念に、
①気づくことから ②無意識を意識 ③言葉を変える(決めつけ、差別的言葉を使わない) ④受け入れる
気づいて、自分ごとにして行動する
難しい意識改革を、分かるように丁寧に取り組んできた豊岡市の活動は、本気の地域再生である。